平成 25 年度　矢作川自然再生計画勉強会　議事概要

日時：平成 26 年 2 月 19 日（水）10：00～12：10
会場：豊田市職員会館　3 階　第 1 部室

１．開会

２．挨拶（豊橋河川事務所長）

３．議事

(1) 平成 25 年度のモニタリング結果について

事務局より平成 25 年度のモニタリング結果について説明した。
各委員より頂いた主な意見は以下のとおり。

【干潟区】

・0k 付近を境に上流と下流で自然干潟のつき方に変化がみられる要因は何か。（委員）
→0k より下流側では、潮汐の影響が大きくなることで洪水時の水面勾配が変化し掃流力が低下する。このため土砂の移動状況が変化していると考えられる。また川幅がラッパ状に広がり、同じ川幅に対する掃流力が小さくなると考えられる。（委員）

・自然干潟はどのように下流へ移動しているか。（委員）
→自然干潟の下流端は少し地盤が高くなっている。自然干潟の平面的な形状は大きくは変化せず移動しているが、移動にともない一度地盤が高くなった後、徐々に下がっていく。（委員）

・施工干潟は、現在維持されているが、今後変動していくのではないか。（委員）
→今までは自然干潟で抑えられていたが自然干潟が移動したため、上流側の沖側付近から変化していく可能性はある。ただし自然干潟と施工干潟の粒径が異なるため、現時点ではっきりとは分からない。（委員）
→横断地形をみると、施工干潟の上流端付近では、現時点においても沖側の河床が低下してきている。引き続き監視していく必要があると考えている。（事務局）

・もともとは、窪地で底質が悪化している箇所を改善するという目的で干潟を施工した。長期的にみた場合に、施工干潟が変化しやがて失われる可能性もある。海域での造成干潟もそれほど維持されないケースが多い。しかしそれで意味がないわけではなく、地形の変化を悪く捉える必要はない。干潟は変化するが、再生することで短時間に再生産する生物がおり、地形の変化が不利になることはない。海域では１０年に１回程度修復するという考え方もある。河口干潟においても、変化するという条件を踏まえてどう位置づけていくかがポイントになる。（委員）

・0k 付近はかつての河口位置にあたる。埋め立てにより河口が下流へ移動したが、本来河口部では自然に干潟が形成される。相当な時間はかかると思うが、今後 0k より下流側でも自然干潟が形成されていく可能性がある。（委員）
→地形をみると、0k より下流側において時間はかかっているが徐々に地盤が高くなってきている。（委員）

・施工区の下流側の窪地は、自然干潟の移動にともなって現在堆積しているのか。（委員）

→下流側は現在も深いままである。（委員）

・0.2k の下流側は高水敷がなくなる箇所であり、この付近の自然干潟にシギ・チドリ類が来る。今後の自然干潟の移動により、この自然干潟がなくなってしまうことが心配である。（委員）

・アサリ、シジミのとりまとめは面白く見させていただいた。ただし長期的には塩分の影響等により変化していくことが考えられる。地盤高の位置づけを今回の結果のみで決めつけすぎないほうが良いだろう。出水によって生物環境が変動していくのは当たり前のことであり課題ではない。継続的にモニタリングし、洪水後にどう回復していくかをみていくことが重要である。（委員）

・ハマグリが増えてきており注目すべき点である。三河湾全体においても近年増えており、このままいけば矢作川河口部でも増えてくると思われる。１０年ほど前までは三河湾ではほとんど見られず絶滅危惧種となっている。（委員）

→豊川河口においても見られるようになってきている。（事務局）

・施工前モニタリング地点において、中央付近の強熱減量が 10%程度の値を示している。これは相当に大きい値であり、底質がかなりヘドロになっていると示唆される。（委員）

【ヨシ原区】

・周辺にワンドが形成されているようなヨシ原は安定しているが、施工区のような流れのあるところは地形が変化しやすい。（委員）

・上流側での工事により、下流側の施工区付近において砂州がついている。（委員）

・施工区下流側のセイタカヨシが生えているところは、地盤を下げヨシ根を入れれば良いヨシ原が再生されると思う。また下流の神社のある付近でもかつてヨシ原があった箇所であり、高水敷をとり地盤を下げると良いヨシ原が再生されるだろう。（委員）

・オオジュリンは、今年はよく入っている。ヨシが定着し良い状況になっている。（委員）

・平成 25 年 9 月の大出水を受けて、植生の流失や倒伏が特に見られなかったことは、上流の久澄橋付近で相当流れてしまったのとは対称的である。（委員）

・植生が定着せず自然裸地となっている箇所をどう考えるか。水際では当初の施工高より地盤高が低下し、その前面にマウンドが形成されている。このような箇所は、河床の撹乱を受けやすい箇所であるといえる。マウンドをとると撹乱の影響を受けやすくなるため、ヨシが流される可能性がある。（委員）

【今後の施工計画への反映について】

今後の干潟区、ヨシ原区の施工計画（施工形状）の考え方は、各委員より了承された。

(2) 平成 26 年度 ヨシ植えイベント計画（案）

事務局より平成 26 年 ヨシ植えイベント計画（案）について説明した。

各委員より頂いた主な意見は以下のとおり。

・イベント実施箇所は、流れの影響を受けやすいのではないか。（委員）

→上下流側が現状のまま（施工していない）状態であり、水際から 15m 幅をバッファーゾーンとして位置付けてあり問題ないと考えられる。（委員）

・配布予定の説明資料において、ヨシが減った原因の説明が少ない。もう少し自然再生事業の経緯、必要性をわかりやすく示せると良い。（委員）

・地域へ募集をかける場合、情報提供は早ければ早いほど良い。募集パンフレットは、赤字で強調したり、イラストを表面に示したりして、参加したくなるような工夫が必要。（委員）

・ヨシの水質浄化機能については、刈り取らないと浄化機能が無いと一般にいわれているが、刈り取らなくても根で窒素をガスにして出すことで水質浄化の効果はある。このことは知っておいてもらいたい。（委員）

４．閉会

以　上